

「2022年度タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 横地里沙子

タイでの2週間はとにかく楽しかった。ほんとうに行ってよかった。それに尽きる。もし思い切ってこのプログラムに申し込んでいなかったら、京都の下宿に閉じこもりいたずらに時を過ごしていただろうと思う。個人的な話ではあるけれど、2回生の間は進路や人間関係に悩みぐずぐずと日を送っていた。きっと私と同じような状況にある人は少なからずいると思う。そういうときはとりあえず遠くに行ってみるのはひとつの手だ。間違いなく頭の風通しは良くなるし、視野も広がる。何より目に映る物全てが新奇だから勉強することが楽しくて、勉強が楽しいことが嬉しかった。

東南アジアは近くて遠い場所である。例えば欧米の作家を5人挙げることは簡単だが、では東南アジアは、と問われてすぐに答えるのは難しい。地理的には近いにも関わらず欧米よりもずっと「未知の世界」なのだ。そしてそれゆえにとっても魅力的な土地である。

今回訪ねたタイ王国の特徴のひとつは上座部仏教が広く信仰されている点だ。仏教は日本でも信仰されているが、日本仏教は全て大乘仏教である。両者の違いがどのように現れているのか、また、生活の中に信仰がどのように根を下ろしているのか、というのは渡航前からの関心事だった。タイでは至る所でオレンジ色の僧衣をまとったお坊さんの姿を目にする。朝の市場では托鉢の様子が見られ、大学内でも他の学生と同じように学食でくつろぐ姿を見かける。しかし、実はタイのお坊さんの多くは一時出家なのだという。子が出家することで親が救われるとされているため、出家は親孝行なのだとか。これは日本にはない価値観でおもしろいし、とても上座部仏教的ではないだろうか。また、タイに来て驚いたのだが、タイ仏教は様々な信仰、特にバラモン教と深く結びついている。タイは厳格な仏教国だと思っていたため、寺院を訪ねてガネーシャ像が安置されていること、華人の石像があちこちに置かれ、仏塔に中国式のタイル装飾が施されていることにはひどくびっくりした。もちろん純粋な宗教なんて存在しないし、仏教はその成り立ちからしてインドの神々を取り込んでいる。日本の仏教だって他の信仰と混ざり合いながら形成されている。しかしタイ仏教は信仰の混ざり方がよりダイナミックだ。島国と大陸に位置する国の違いなのか、中国化・インド化の影響が非常に色濃く感じられる。仏塔建築に関してはカンボジア的な要素も多く取り入れられているようだ。他にも、寺院にはお坊さんの居住スペースである僧坊が設置されているがそこではどのような暮らしが営まれているのか、寺院と教育の関係とは、お坊さんの行う公共事業とは……といった興味は尽きない。また、滞在先のチュラーロンコーン大学では仏教の世界観についての授業の時間もあったのだが、核となる思想に日本仏教と目立った違いはなかった。それでは、同じ世界観に基づきながらも一体どのような要素がどのように組み合わせられて異なる様態の寺院や習慣が生まれてきたのだろうか。

共同発表では屋台を扱った。屋台を調べていく中で気が付いたのはバンコクの街路の楽しさだ。バンコクはひどい交通渋滞でも有名だが、その原因のひとつは抜け道の少なさにある。日本の街路が基盤の目だとしたらバンコクの街路は魚の骨のようなものらしい。主要道路からは多くの脇道が伸びているがその多くは袋小路になっており抜けられない。結果として車両は主要道路に集中し朝夕は渋滞になる。そのため車の間をすり抜けるバイクの利用者も多い。路地を散策し、路上に溢れる屋台を眺めていると、しみじみ自分が今タイにいることが感じられる。

現地の言語、文化を学ぶ機会がしっかり設けられているのは留学プロジェクトならではだ。私が個人で旅行をしたのでは気付かなかっただろうことに目を開かされる。タイ語の先生はとても優しく、街に出たらすぐに使える表現を中心に教えてくださった。習ったことをすぐ実践できる環境だった。これまで言語学習というと「読めること」が目標だったので発音練習はおざなりにしがちだったが、タイ語学習の一番の目標は「コミュニケーションを取れること」なのでそうは言っていられない。「伝えられるタイ語」を目指して勉強を続けたい。

そして、このプロジェクトでタイを訪ねて何より良かったのがチュラーロンコーン大学の学生たちと出会えたことである。もしこれとは別の機会にタイを訪ねていたとしたら彼ら彼女らと親しくはなれなかつたらしく、タイを発つのがあんなに名残惜しくはなかつたらしく。試験前の忙しい時期にも関わらず、色んな場所を案内してくれて、一緒にご飯をたくさん食べた。タイのこと、日本のこと、家族のこと、様々な話をしていると離れがたくて時を忘れてしまう。チュラ大の皆に甘え倒しの2週間だった。今から彼らが日本へやって来るのが楽しみではない。

私は現在文学部社会学専攻でフィールドワークにより卒論を書こうとしているのだが、今回の留学を踏まえタイをフィールドにすることを考え始めた。仏教について長々と書いたけれど、タイの信仰で最も心惹かれたのはアニミズム、精霊信仰だ。もっとタイ語の勉強を進めた上でタイを再訪したい。

最後になりますが今回の渡航を運営してくださった京大・チュラ大の先生方、事務員の皆さま、留学の手助けをしてくれた家族に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。